

序 文

長崎大学公開講座叢書・第13集「地域福祉の推進」を刊行する運びになりました。

福祉の考え方は種々ですが、時代や国・地域の経済、社会状況などの背景によって変わります。先進国においては、地域福祉あるいは社会福祉は措置する福祉からサービスする福祉に変わってきています。すなわち、「みてやる」という感覚からサービスを利用するものが自ら選ぶ福祉に変わったのです。利用するものの需要は多様化していますので、サービスの種類も種々の観点から創り出し、福祉のシステムの中に組み込んでいく必要があります。とくに、近年における人口の高齢化の進行、国民意識の多様化と個性化、家族形態の変化、所得水準の向上など社会の変化に対応することが肝要です。このような状況から、福祉は保健、医療との連携の必要性は当然のことですが、さらに地域の文化、スポーツ活動など生活の質の向上にも配慮する必要性が生まれています。人生80年時代にふさわしい福祉のシステムを創造する時期にきています。そのシステムには公的なものだけでなく、民間活動の参画がより求められるのです。

長崎県は、古い歴史・文化を誇り、美しい風土がある反面、多数の離島、風水害の多発、海洋汚染の進行、多くの斜面都市、人口の少子高齢化、原爆被災地の存在などわが国が抱える課題を凝縮したユニークな地域特性をもっています。このような観点からも、長崎県は地域の福祉を学び、創造していくには極めて適切な対象と言えます。

本集は、先進国における成熟した社会での福祉のあり方を求めて、地域からの具体的提言をまとめたものであります。提言の背景には福祉の発展の歴史が含まれていることも読みとって頂きたいと思います。

終わりにあたり本書を企画された生涯学習教育研究センター運営委員会と執筆者各位に敬意を表しますとともに、刊行にご尽力下さった財務省印刷局に深く感謝致します。

平成13年3月

長崎大学長 池田高良